

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども/生活ソーシャルサポートセンターBecoming			
○保護者評価実施期間	R7年1月27日 ～ R7年2月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	R7年1月27日 ～ R7年2月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援の専門職が、一人ひとりの個性や強みを分析、見極め、可能性を引き出すための適切なサポートを実施できることに執着せず、できることをもっと増やし、未来の選択肢を広げるために丁寧に寄り添うことができる	STAFFの愛と技術をしっかりと培うことができるよう、月1回の会議・週1回の研修を欠かさず実施している また、セッションを動画撮影（同意書あり）し、Becomingスタッフで検討、各自の苦手をSTAFFみんなで理解し、前に進んでいる	STAFFみんなが、Becomingで働いていることに誇りを持てるよう、学び合い、高め合いながら、日々自己研鑽に努めることができるよう、運営を進める
2	個別の必要性と小集団の必要性をしっかりと分析し、タイミングを逃すことなく、セッションで関わるができる	集団にどんな形で参加するかも含め、個別で関わることの重要性をスタッフ一人ひとりに認識してもらっている また、親子で参加していることの意義をしっかりと理解し、関わってもらっている	STAFFみんなが、Becomingで働いていることに誇りを持てるよう、学び合い、高め合いながら、日々自己研鑽に努めることができるよう、運営を進める
3	未就学児の保護者と過ごす時間の重要性やわが子の保護者理解（ペアレントトレーニング）など含め保護者同伴が基本、ご家族それぞれの忙しさなどあるが、自宅での関わりや声かけなども変容が起き、子どもの変容が起きる	セッション内で、子どもとの遊び方や声のかけ方、子どものおもしろさや楽しさなど共有しながら、今何が見えているのか、何が難しいのか、なぜ難しいのかななどを丁寧に伝えることができる	保護者の不安や悩みを聞き取り、セッション内で丁寧に解決したり、スッキリしたり、前に進むことができるよう、努める

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ただ専門職（スタッフ）がいるということだけでなく、しっかりと学び続けていることを伝えることができていない	アウトプットの弱さ	学会発表や症例発表・研究など、徐々に進めている 来年度は、動いていきたい
2	福祉事業や療育という枠にとどまらず、地域の子どもたちや社会参加という観点からBecomingを広げていくこと	アウトプットの弱さ	SNSやYouTubeなどのマーケティングで、丁寧にBecomingを知ってもらう機会を増やす 地域密着型で、地域の方との繋がりを大切に捉える
3			